

シリーズ名 利をたずねて

往時を今に伝える

浄土真宗本願寺派

白鳥山

高山寺

飯綱町平出

高山寺第十九世住職

白鳥岳史

飯綱町大字平出二〇八

電話二五三一七一七三



高山寺は、一六四八年に今の篠井塙崎から当地平出（ひらいで）に移り現在に至るといわれます。江戸の三代将軍徳川家光の時代ですから、今から三五八年前のことです。

当宗派は、世襲制度によって代々繼承されて来て、現御住職は第十九世となります。

寺の年中行事のなかで最も大切な報恩講は毎年十一月に行なわれます。この時期はみなさん、秋の収穫や冬に備えての作業で忙しいから、今年からは九月ごろにしようかな、とお住職言つておられました。

江戸時代、百万石の大名加賀侯が参勤交代の折に、高山寺で休み、飲

まられた名水の井戸があります。

往時の北国街道は佐渡から江戸へ金の輸送と北陸諸藩の参勤交代などで人の往来が多く、この場所が江戸と加賀の中間地点であったことにも由来します。

井戸は庫裏の南側にあり、明治天皇の北信御巡幸の折にも、この井戸水を御飲水されたと刻まれた石標も立っています。

背水の陣（はいすいのじん）兵法では山陵を背にし、水沢を前面にして対するのが常識で、これとは逆に、河を背にして布陣する「背水の陣」は、逃げ場がないので、死力を尽して戦うほかないため、かえつて生きる道がひらける。

剣豪宮本武蔵ですら小船で海を渡り、水を背にして小次郎と対戦した。

逃げ場をつくらず、決死の覚悟で局面に対する。

剣豪宮本武蔵ですら小船で海を渡り、水を背にして小次郎と対戦した。

逃げ場をつくらず、決死の覚悟で局面に対する。

現代にも通じる法則である。

「破天荒（はてんこう）」今春もまた入試シーズンを迎える。

東大合格出身校別の数字が、

活からはい出して来て、水辺に木造小屋を建てて定住生活に入り、イヌ、ヒツジ、ヤギなどの家畜を飼うようになります。

野営における夜の見張番として、あるいは氷雪にとざされている地方の交通機関としての犬ザリなど、一日二〇〇～一五〇キロメートルも続けて走ることができます。牧羊では人間以上に巧みにヒツジを管理し、数千のヒツジをわずか数匹のイヌが整然と柵の中へ追い込むことは、オオカミが巧みにヒツジを落し穴に追いつめて殺す本能に基いていると言われます。

ということは、イヌの祖先はオオカミ群（イヌ属、シベリアヤマイヌ）とキツネ群（キツネ属、ホツキヨクギツネ）で、このうち家犬の祖先は

したがって、高山寺は江戸時代から明治時代、そして旧北国街道の繁栄を今に伝える貴重な存在でもあります。

中国名言集 その③
賢いあなたに捧げます



他山の石（たざんのいし）ほかの山の石はガラクタかもしれないが、まったく役に立たないわけではない。自分のところの玉を磨くとき、砥石として使えるかもしれない。表現としては適正です。おいしくて健康によい。まさに平井さんはスポーツを実践しているわけで、これからが楽しみですね。（長井）



イヌは人類最初の家畜



加賀のお殿さまがお寄りになるからよろしく頼むぞ。と言う高山寺宛の手紙があり、町の文化財に指定され、本物はいづな歴史ふれあい館に展示してあります。

イスと人間との出会いは、新石器時代といわれます。人類ははら穴生

きを以て走ることができます。オオカミが巧みにヒツジを落し穴に追いつめて殺す本能に基いています。

ということは、イヌの祖先はオオ

カミ群（イヌ属、シベリアヤマイヌ）

とキツネ群（キツネ属、ホツキヨク

ギツネ）で、このうち家犬の祖先は



編後記

高山寺の井戸

つくること二筋に、生涯を賭ける生粋な職人気質（じょくにんのかたぎ）の、素敵な方にお逢いすることができます。ヤーコンの平井さん。

お茶うけにヤーコンの粕漬をいただきました。シャキシャキとした歯ごたえで甘味があつて、旨い！アラ、ごめんなさい。「おいしい！」が表現としては適正です。おいしくて健康によい。まさに平井さんはス

ーパーのお肉は食べませんのよ、ホツホツホツ。あら、このごろ太りすぎみね。いやね、私に似て。

スーパーのお肉は食べませんのよ、健康によい。まさに平井さんはス

ーパーを実践しているわけで、これからが楽しみですね。（長井）